

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

今後は「離職防止」が人事の最大任務に 山本 寛 (青山学院大学経営学部教授)

1. 離職防止策は、人事領域の中では「定着管理」に当たります。かつては定着管理といえば若手社員向けの研修や福利厚生がもっぱらの問題で、人手不足になるたびに一時的に話題になるにとどまっていました。バブル時代を思い返すと、豪華な独身寮やテニスコート、海の家、山の家といった保養施設がそれに当たります。
2. しかし近年は、入社から退職するまでの流れの中での定着管理の重要性が高まりました。多くの企業で入社後の配置から昇進に至るまでの期間が長くなった結果、その間も社員に会社にとどまってもらうための取り組みが必要となったのです。今や定着を重視する傾向は、採用や人事評価、報酬の設定など人事の全分野に広がっています。こうした変化を受けて、定着管理は「リテンション (維持・引き留め) マネジメント」として経営学の一分野にまで発展しました。
3. 最近、企業への調査で人事部門の課題として必ずトップ10に入るのは「次世代幹部候補の育成」。今の日本で、幹部候補を全員他社から連れてくるという姿勢の企業はごく少数派です。人材定着の基本となる考え方は、「この会社で働き続けても、他の企業で必要とされる能力は十分に身に付く」と社員が思えるようにすることです。つまり社員の「エンプロイアビリティ」(雇用される能力)を企業が積極的に保証するということが重要なのです。
(参考:「日経ビジネス」2019年8月26日号)

経営者のための理念・哲学

情熱はあらゆる創造の源泉

1. 「人に大切なものは知識よりも才能よりも何よりも真剣味であり、純潔な情熱である」。安岡正篤師の言である。情熱なきところ、いかなる能力も開花するはずがない。情熱はあらゆる創造の源泉である。
2. 二宮尊徳にもこういう言葉がある。「おおよそ、人の^{くんこう}勲功は心と体との二つの骨折りに成るものなり。その骨を折りてやまざれば必ず天助あり」。おおよそ人の勲功は心と体を二つの骨折りで出来上がるもので、骨を折ってやまない時は必ず天助がある。そして、こう付け加えている。「骨を折れや二三子(そなたたち)。勉強せよ二三子」。先知先賢の一致して説くところを私たちも学びたい。

(参考:「致知」:2019年10月号)

海外事情

ロボットの普及で所得格差は拡大

1. ロボットの普及が加速している。世界の産業用ロボットの普及台数は225万台となり、過去20年で3倍に拡大した。国際ロボット連盟の短期予測などを基に推計すると、2030年には2000万台に達する見込みだ。ロボットは生産の効率化のみならず、新しいビジネスや雇用を創出し、生産性を高め、GDPを押し上げる。
2. 他方、ロボットに職を奪われるという懸念も世界的に広がりを見せている。21世紀に入ってから、製造業において1700万人もの職が主要先進国と新興国から奪われている。ロボットが1台増えると、1.6人分の職が奪われていく計算だ。今後、2030年までに、さらに2000万人分の職がロボットに奪われる。また、低スキルの職ほどロボットに代替されやすい。ロボットの普及は所得格差を拡大させてしまう。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2019年8月3日号)

古典に学ぶ

政には道徳が必要

(解説) もちろん世に立って、^{まつりごと}政を行うには、政務の要費はもちろん、一般人民の衣食住の必要から、金銭上の関係を生ずることは言うまでもないから、結局、国を収め民を済^{すく}うためには道徳が必要であるから、経済と道徳とを調和させねばならぬ事となるのである。

(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)